**指導と評価の工夫改善に関する実践例**

**～文章の内容を的確に読み取り、要約する～**

甲斐清和高等学校　国語科

**教科名**　　　**国語総合**

**単元名**　　　場面の推移や比喩表現に注意しながら、登場人物の心理や彼らが置かれた状況を

読み取る【読むこと】

**（１）単元の目標**

・場面の推移に従い、登場人物の心情や行動がどのような表現で描かれているか、理解しようとする。【関心・意欲・態度】（Ｃ（１）ア）

・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の心理の変化を把握するとともに、ここに描かれている人物や状況が意味するものは何か、理解する。【読む能力】（Ｃ（１）ウ）

・文章の構成を捉え、比喩などの表現技巧を文脈の中で理解する。【知識・理解】（伝国（１）イ(ｲ)）

・的確に本の内容を読み取り、それが伝わりやすいように工夫してレジュメを作成しようとする。【関心・意欲・態度】（Ｃ（１）オ）

・他者に正確な情報を伝達するための言語の役割、特徴について理解する。【知識・理解】（Ｂ（１）ウ）

**（２）取り上げる言語活動と教材**

**言語活動**：文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、要約や詳述をしたりする。また、興味を

持った本の内容やその魅力について、レジュメを作成する。（Ｃ（１）イ）

**教材**：「羅生門」（芥川龍之介）、「この本を読んでみて！―ブックトーク」

**（３）具体的な評価基準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **関心・意欲・態度** | **読む能力** | **知識・理解** |
| 場面の推移に従い、登場人物の心情や行動がどのような表現で描かれているか、理解しようとする。  的確に本の内容を読み取り、それが伝わりやすいように工夫してレジュメを作成しようとする。 | 描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の心理の変化を把握するとともに、ここに描かれている人物や状況が意味するものは何か、理解する。 | 文章の構成を捉え、比喩などの表現技巧を文脈のなかで理解する。  他者に正確な情報を伝達するための言語の役割、特徴について理解する。 |

**（４）指導と評価の計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **次** | **具体的な評価基準と評価方法** | **学習活動** |
| **１** | **【評価基準】**  文章構成における場所や時間の設定、多用されている動物の比喩などの意味するものを的確に捉えている。（知識・理解）  **【評価方法】**  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」 | 朗読ＣＤを聞きながら、「羅生門」を通読する。  ・どのような表現技巧や比喩が使われているのか整理する。  話の構成と設定を確認する。  小説における風景、背景描写の意味を学ぶ。  ・物語の舞台となっている時代、社会の状況を把握し、主人公下人がその中でどのような状態に置かれているかをグループで検討する。  時代／場所／様子／季節／時間／天候など  ・風景、背景描写と心理との関わりについて、グループで検討する。  きりぎりす／からす／雨など  ・各グループの発表を聴きながら、自分のグループの考えを捉え直し、ノートにまとめる。 |
| **２** | **【評価基準】**  下人のおかれている状況、老婆の考え方を捉え、二人の行動や心情の変化が、場面の推移に従ってどのような表現で描かれているかを理解しようとしている。（関心・意欲・態度）  **【評価方法】**  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」 | 下人のおかれている状況とその思いをつかむ。  ・羅生門の下で雨やみを待つ下人が置かれている状況とその思いについて考える。  老婆に出会うまでの下人の心の動きを捉える。  ◆楼に上ろうとする時  ◆楼の上へとのぼる時  ◆下人が見た楼の上の様子  ◆老婆を見つけた時  ◆老婆が死体から髪を抜いていると知った時  ・以上についてグループで検討し、発表。また、各グループの発表を聴きながら、自分のグループの考えを捉え直し、ノートにまとめる。 |
| **３** | **【評価基準】**  比喩表現や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化、そしてそれが意味するものが何であるかを理解している。（読む能力）  **【評価方法】**  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の確認」  「記述の分析」 | 下人と老婆の心の動きを、下人の行動と関連させて捉える。  ◆老婆に向かっていく下人の心理  ◆老婆を捕らえた時の下人の思い  ◆老婆の弁明の論理  ◆老婆の弁明を聞いた下人の思い  下人の変貌の意味について考える。  ◆引剥に至る下人の心理を、下人の態度と言葉から考える  ・以上についてグループで検討し、発表。また、各グループの発表を聴きながら、自分のグループの考えを捉え直し、ノートにまとめる。  老婆との出会いを通して、下人の何が、どのように変貌したのかを考える。  ・全体で原典「今昔物語集」と読み比べる。  ・下人のその後を物語として個人で創作する。 |
| **４** | **【評価基準】**  的確に本の内容を読み取り、それが伝わりやすいように表現方法を工夫してレジュメを作成しようとする。（関心・意欲・態度）（知識・理解）  **【評価方法】**  「行動の観察」  「行動の確認」  「記述の点検」  「記述の確認」  「記述の分析」 | 朝読書等で日頃読んでいる本を紹介するためのレジュメを作成する。  ◆本のデータ（書名、著者名、出版社）  ◆出会ったいきさつ  ◆あらすじ（内容）  ◆本の感想や魅力  ◆キャッチコピー（２０字以内）  ・個人で以上の項目についてまとめ、紹介する本を持った写真を添付したレジュメを作成する。 |

**（５）各次の評価基準**

**【第１次】（１時～２時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標**（評価基準） | 文章構成における場所や時間の設定、多用されている動物の比喩などの意味するものを的確に捉えている。 |
| **言語活動** | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、それを発表したりまとめたりすること。 |
| **教材** | 「羅生門」（芥川龍之介） |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  比喩や表現技巧が登場人物の人間性の表現として重要な働きをしていることを理解している。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  どのような表現技巧や比喩が使われているのかを整理させる。 |
| **評価方法** | 机間巡視により、グループ内での検討への取り組み具合（話し合いに積極的に参加しているか、ノートにメモをとっているか）を確認する。 |

**【第２次】（３時～４時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標**（評価基準） | 下人のおかれている状況、老婆の考え方を捉え、二人の行動や心情の変化が、場面の推移に従ってどのような表現で描かれているかを理解しようとしている。 |
| **言語活動** | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、それを発表したりまとめたりすること。 |
| **教材** | 「羅生門」（芥川龍之介） |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  個々の叙述から、下人や老婆が置かれている状況とその心理を読み取り、人間のあり方についての考察を深めている。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  主人公が置かれた状況、場面の推移に従い、一つ一つの語りや背景描写から確認させる。 |
| **評価方法** | 机間巡視により、グループ内での検討への取り組み具合（話し合いに積極的に参加しているか、ノートにメモをとっているか）を確認する。 |

**【第３次】（５時～６時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標**（評価基準） | 比喩表現や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化、そしてそれが意味するものが何であるかを理解している。 |
| **言語活動** | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、それを発表したりまとめたりすること。 |
| **教材** | 「羅生門」（芥川龍之介） |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  下人と老婆の交渉と、それを取り巻く羅生門という世界が意味するものについて、理解を深めている。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  下人と老婆の言葉の意味や、それがなぜ発せられたのか、その経緯や文脈を追いながら確認させる。 |
| **評価方法** | 机間巡視により、グループ内での検討への取り組み具合（話し合いに積極的に参加しているか、ノートにメモをとっているか）を確認する。  下人のその後について書かれた物語は提出させ、後でプリントにして他の生徒の文章も読ませる。そこで根拠に基づいて書かれているか、相互に分析する。 |

**【第４次】（７時）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目標**（評価基準） | 的確に本の内容を読み取り、それが伝わりやすいように表現方法を工夫してレジュメを作成しようとする。 |
| **言語活動** | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、それを発表したりまとめたりすること。 |
| **教材** | 「この本を読んでみて！―ブックトーク」 |
| **評価基準** | **Ａの具体例**  情報を正確に伝達するための言葉の使い方について理解し、工夫を凝らしたレジュメを作成している。 |
| **Ｂ**  「目標」に同じ。 |
| **Ｃへの手だて**  自分が伝えたいことを伝えるために、どのような表現を使えばいいのか考えさせる。 |
| **評価方法** | レジュメの作成に意欲的に取り組んでいるかを確認する。レジュメは提出させ、相互に鑑賞（分析）する。 |

**（６）言語活動の充実の工夫**

・グループ（３～４名）学習による内容整理

表現の効果や内容、登場人物の心理を正確に把握させることはもちろん、他者に自分の考えを伝え、また他者の意見に耳を傾けることで、各自の意見を確立させていく能力を養うためにグループで学習させる機会を設けた。座席の列ごとや学習班などクラスの特性に合わせたグループを作成しているが、３～４名程度の人数が適切な様子であった。

・「後日談」創作活動

各自で物語を創作するためには、結末に至るまでの登場人物たちの心理描写を正確に把握する必要があるので、内容を正確に読み取る能力を養うことが出来る。また、自由な発想のもと書かれた「後日談」ユニークな感性に溢れたものも多く、生徒たちが楽しみながら創作活動に取り組んでいる様子をうかがうことも出来た。（生徒によっては、「下人」や「老婆」のイラストを添える者も）

・読書活動を充実させ、その楽しさを他者に伝える表現活動

本校では朝のＳＨＲ前に１０分間の「朝読書」時間を設けている。落ち着いた気持ちで１日の学校生活に臨むことを目的として実施されているが、生徒たちがさらに主体的に「読書」という活動に向き合えないかと考え、「羅生門」を通して身に付けた「文章の内容を的確に読み取る」力を発展的に活用した。内容をただ読み取るだけではなく、それぞれの生徒がその楽しさや魅力を外に発信していくために必要なことは何かについて考え、工夫を凝らしたレジュメの作成に繋げていた。

**（７）評価の具体的な工夫**

**①単元の展開において、評価の観点をどう位置づけているか**

フィクションの楽しみを味わう「小説」という単元では、生徒各自のこれまでの読書体験が評価にも関わってくると考えている。導入部分においては、筆者や物語、また、語句の意味、表現技巧などに関する知識をどの程度深めているかという点がその後内容を読み進めていく上での鍵になってくるため、「知識・理解」の評価基準を設定した。展開部分では、導入部分で習得した知識を活かして学習活動に臨み（「関心・意欲・態度」）、読解力（「読む能力」）を高めることに繋げられたかを評価の観点に定めた。また、発展学習の「ブックトーク」では、読書活動への取り組む姿勢や正しく情報を伝達するために必要な「書き言葉」の力を評価したいと考え、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」に重点を置いた。

**②各観点の評価を、どのような方法で行っているか**

**「関心・意欲・態度」**

グループ学習に臨む姿勢（話し合いに参加する姿勢、メモの取り方）を机間巡視で確認。また、話し合いの結果を発表させる際には、同一の生徒ではなく、出来るだけ全員が一度は発表するように指示をした。「ブックトーク」のレジュメ作成においては、作業に向かう姿勢を確認。完成したものは提出させ、各項目の内容について点検。

**「読む能力」**

グループ学習、そしてその後の発表から整理した内容をまとめられたか、ノート提出をさせて点検。また、「後日談」を書かせることで、心理描写を的確に把握出来たかを確認した。

**「知識・理解」**

授業中においては発問に対する反応を確認。また、教科書の「学びの道しるべ」や基本問題（漢字の読み書き、語句の意味）プリント等に取り組ませ、提出させて点検した。

**③評価を生徒にどのように還元しているか**

２～３００字程度で書かせた「後日談」はクラスごとに全員が読めるよう、プリントにまとめて配布。「ブックトーク」は、教室内に掲示した。各自が創作したものを相互に鑑賞させることで、内容理解を深めさせたり、友人の新たな面に気付かせたりすることが出来た。

**（８）成績（定期試験等）と評価の関係についての考えや具体的な方策**

提出させたノートや課題については、以下の基準をもとに学期末試験の際に平常点として加点。読解力や表現力に多少乏しい生徒でも、意欲的に課題に取り組み、楽しんで表現活動に励もうとしている点を評価した。

❶意欲的に取り組むことで的確に内容を把握する力が定着し、知識・理解が深められているもの。

❷意欲的に取り組んではいるが、内容を的確に把握する力や自分の考えを表現する力に課題が残るもの。

❸課題に取り組む姿勢に意欲が感じられないもの。（ただ提出しただけのもの）

❹未提出のもの。※評価できず

**（９）シラバス作成と評価計画との関係についての考えや具体的な方策**

「課題発見力の育成と社会的思考力の向上を図る」を研究主題として、今年度はシラバスを作成した。特に「国語総合」においては、高校入学時から「国語力」を総合的に伸ばせるような取り組み、そしてそれを評価していく計画を立てた。各学期、各単元ともに、語彙の獲得やことばの関係性、文脈を理解させること、そして共感的、論理的理解を深めることに重点を置いた。そして、中でも折に触れて自ら表現する活動を盛り込み、それに取り組む姿勢を評価していく点を意識した。

**（１０）取組を振り返って**

**【成果のあがった点】**

グループ学習を取り入れたことによって、主体的に課題に向き合おうとする意識が定着しつつあることを実感している。講義形式の受け身の授業では得られない、生徒間で教え合う、聞き合う姿勢が出てきた。そうしたコミュニケーションの機会を増やすことは、クラス内での新たな人間関係の構築などにも繋がった様子である。また、単元ごとに何らかの表現活動を取り入れることで、自らの考えを「書くこと」「話すこと」への抵抗が少なくなってきた傾向も感じる。創作した作品、レジュメなどは生徒同士が相互に目にする機会（プリント配付、教室掲示）を作ったことも、効果があったのかもしれない。

**【課題と改善策】**

　表現活動に楽しんで取り組む生徒が増える一方で、自己表現力に乏しい生徒への対応に苦慮している。授業中では作品の創作が終わらず、「書けない」「話せない」ことから授業を欠席してしまうケースもあった。クラス担任の先生や保護者にも協力してもらうことで、自分なりに努力した成果を提出させるようにした。また、話し合いの機会を持つことは、主体性を養うことが出来る一方で、ともすると授業から別の話題へと脱線しやすくなるデメリットがあることにも気づいた。どちらの課題にしても、必要なことはその時々に応じた「声掛け」をすることだと感じている。